

○一般口演

1. 抗豚流行性下痢ウイルス鶏卵黄抗体のウイルス不活化作用

梅田浩二¹、鈴木 亨²、大橋誠一²、Seong-cheol Moon³、Shofiqur Rahman¹、Sa Van Nguyen¹ (1株式会社ダブルニュートリション・ジャパン 岐阜免疫研究所、2 農研機構動物衛生研究部門、3Komipharm International Co., Ltd.)

豚流行性下痢 (PED) は 2013 年に再興・流行し、現在でも散発発生が継続している。

2013 年以降に分離された PED ウイルス (PEDV) は、病原性に関与するとされる S 遺伝子に関して 1980 年代及び 90 年代の分離株と遺伝的に明確に異なっている。当社はこれまで 80 年代の PEDV 株を対象に鶏卵抗体を作製し、それを子豚に経口的に投与し、受動免疫を付与することで当ウイルスに対する防御能を高める製品を製造・販売している。

今回新たに 2014 年岐阜県下での PED 発症豚より鶏卵黄抗体 (IgY) を作製し、ウイルス中和試験で既存 IgY との抗ウイルス活性を比較・検討したので報告する。また、子豚における IgY の体内動態に基づいて、PED 予防を補佐するための IgY 活用を提案する。